

公民 活動例 A 「高度経済成長期以降の社会」

(1) 学習单元と具体的な学習内容

学習单元：内容（1）ア

○高度経済成長期以降の社会と今日

具体的な学習内容

○現代日本の発展過程 ○国際化の進展のあらまし

○現代社会の特色 ○高度経済成長から今日への変容

(2) 目標

① 社会科としての目標

- ・ 公民的分野の導入单元として、適切な題を設けた学習の流れをとらえさせることが必要である。
- ・ 高度経済成長から今日への変容の過程を国際社会における我が国の役割や現代日本の発展過程、国際化の進展のあらましなどに関連づけながら現代社会の特色をとらえさせる。

② 身に付けさせたいスキル：

- ・ 学習の流れをとえるスキル
- ・ 情報収集のスキル
- ・ 他者に分かりやすく表現するスキル

③ 身に付けさせたい日本語のスキル

- ・ 難しい、公民学習の語彙はともかく、自分が調べた内容に関し、他者（同じクラスの生徒）に分かりやすく表現するスキル

(3) 対象の生徒のイメージ

経験知識	母国における生活と日本における生活の違いをできるだけ具体的に挙げることができる。「電話」、「家電品」などの基礎的な知識はもっていて、意味が分かる。
日本語の力	教師とのやりとりであれば、ジェスチャーや絵図等を指し示すなどして、自分の考えをなんとか伝えることができる。 短文を並べる方法ではあるが、ある程度まとまった内容を書くことができる。

(4) 学習の流れと参加支援の例 (全体の時間数 8時間程度)

時	在籍学級における学習活動例	学習への参加を促すための支援の例
つ か む	<p>①学習の見通しをもち、戦後すぐの貧しかった頃の日本の姿を知る。</p> <p>②興味・関心をもった課題(テーマ)をグループごとに設定する。</p> <p>《課題例》</p> <p>○家電品の変遷を知る。 ・自分が生まれた頃には、どのような家電品が登場したのか。</p> <p>○食生活の変容 ・今の食生活の中で、輸入食品にはどのような物があるの？</p> <p>○国際化の進展の影響は？ ・家電品の中の特に電話の変容を知る。</p>	<p>○公民的分野の学習全体の導入として、課題解決的な学習の流れをワークシートで確認させる。【理解】</p> <p>○日本の貧しかった頃の様子を写真や当時のビデオを視聴させ、イメージをつくらせ、当時の様子を振り返らせる。【理解】</p> <p>○「話し合いを通して課題を集約し、いくつかのグループをつくる。」という学習の流れを確認させる。【理解】</p> <p>○例えば「電話」を母語で表現させ、日本語で言い換えさせる。【表現】</p> <p>○家電品の変遷の様子を教科書の写真を見て興味を持たせたり、課題例を例示する。【理解】</p>
ま と め る ひ ろ げ る	<p>③調査方法やまとめ方、発表の仕方などを相談し、学習の見通しを立てる。</p> <p>《課題づくりのための学習活動例》</p> <p>○高度経済成長期以降の日本発展の現状を知る。</p> <p>○日本の食糧自給率の低下傾向と国際比較から食の将来について考える。</p> <p>○少子高齢社会の現状と問題点を探る。</p>	<p>○重要語彙②③の語句の説明を行う。【理解】</p> <p>○課題、仮説、課題設定の理由など④の語彙の説明をし、提示し、学習意欲を喚起する。【情意】</p> <p>○「保護者・地域の人々への聞き取り、図書館・博物館などの利用、図書資料・インターネットの活用など多様な調査」などの学習活動を在籍学級で行うことを理解させる。【理解】</p>

発信する	<p>④ 様々な方法で課題を追究することを通して調べ方や学び方を学ぶ。</p> <p>⑤ 課題のまとめ方や発表の仕方について、話し合い、その準備をする。</p> <p>⑥ 屋台村方式の発表会を行う。 《課題づくりのための学習活動例》</p> <p>○ 情報化社会の明と暗を考える。 《生徒の考える課題例》</p> <p>・ 交通機関の発達の社会生活への影響を考える。</p>	<p>○ ポスターセッション(屋台村方式)の発表会のやり方を知る。【理解】</p> <p>○ 発表の際、「自己評価や生徒同士の相互評価」を行うという学習の流れを確認させる。【理解】</p> <p>○ 「レポート作成上の留意点を具体的に指示する(「私たちはどのような社会に生きているのだろうか」の疑問に答えるかたちで学習課題の追究結果をレポートとして具体的に記述する)」という学習の流れであることを指示し、レポート作成の要点のみを書き出し、提出するように指示する。【表現】</p>
------	---	---

※網掛け：(5) 指導案で示す授業

(5) 指導案

① 本時の目標

- ア) 高度経済社会以降の日本のこれまでの歩みを国際化の進展とともにとらえるため、自らの課題を設定する。
- イ) 適切な課題を設けた学習の仕方を学び、公民の今後の学習への見通しをもつ。

② 本時の展開

学習の流れ上の「つかむ」(第1時)の指導案の例である。

学 習 活 動	・ 指導上の留意点、 ★教材	○日本語支援(タイプ)
事前	<p>① 保護者へ聞き取りを行う。</p> <p>○ 保護者への聞き取り学習ヒントシートを活用し、聞き取りの仕方をあらかじめとらえさせておく。</p>	<p>○ 聞き取りの仕方を事前にとらえさせ、学習に意欲的に参加させる。【参加】</p>

		<p>★ 高度経済成長期以降の社会についての学習ヒントシート ④ 2</p>	
導 入	<p>② 学習の見通しをもつ。 ③ 戦後すぐの貧しかった頃の日本の姿を知る。 ④ 家電品の変遷を知る（電話屋で電気冷蔵庫などの身近な家電品などの変遷を例に考える）。</p>	<p>○ 中学校 1 年、2 年生の歴史的分野、地理的分野の学習を踏まえて、この学習にはいるので、歴史や地理の学習内容の理解が不十分な生徒には、世界地図上の位置関係（日本、母国、アメリカ、ヨーロッパの国々、中国、インド、韓国・朝鮮などの主な国々）や歴史の大きな流れ（明治、大正、昭和、平成などの主な時代区分）などをとらえさせる必要がある。</p> <p>○ 本日の学習の流れをワークシートで確認する。</p> <p>★ 写真(①)、当時のビデオ</p> <p>★ 重要語彙②③のカード</p>	<p>○ この学習の最後は、ポスターセッション(屋台村方式)の発表会などの発表学習であるという学習の流れをつかませる。</p> <p>○ 学習発表会の V T R が用意できるようなら、V T R を視聴させて、重要語彙②③の語句の説明も行う。</p> <p>【理解】</p> <p>○ 写真(①)を見たり、当時のビデオを視聴させ、イメージをつくらせ、当時の様子を振り返らせる。【理解】</p> <p>○ 生徒にとって身近なケータイ、「電話」を持参しその変遷を考えさせることへ興味を喚起する。また、ケータイを母語で表現させ、日本語で言い換えさせる。</p> <p>【表現】</p>
	<p>⑤ 家電品の中の特に</p>	<p>○ 日本の貧しかった頃の様子を写真集</p>	<p>○ 課題、仮説、課題設定の理由など⑤の語彙の説明、提</p>

<p>展 開</p>	<p>電話の変容を知る。 ⑥「現代社会と私たちの生活」について、課題設定理由を明確にし、課題を設定し、仮説を考える。</p>	<p>などで分からせる。 ○家電品の変遷の様子を教科書の写真を見て興味を持たせる。 ○あらかじめ電話の変遷の様子を保護者に聞き取らせておく。 ○電話の変遷について資料を見て確認する。 ○J S L対象生徒の母国の現状と比較し、違いを明確にする。 ○ワークシートを活用し、これからの学習に対する見通しを持たせ、興味・関心を喚起し、学習の目当てを自覚させる。 ★ヒントシート1、2</p>	<p>示。【情意】 ○課題を作ることができない生徒には、④ヒントシート1、2を与えて取り組ませる。【理解】 ○ヒントシート④2を活用し、聞き取り内容や自らの疑問点などから課題を見つけるよう促す。【情意】 ○課題例を例示する。【理解】 〔保護者（お父さんやお母さん）が生まれた頃の家電品<small>かでんひん</small>と今の家電品はどう違うのか。また、電話はどのように変化したのか。など〕</p>
<p>ま と め</p>	<p>⑦「現代社会と私たちの生活」の調査の仕方を知る。</p>	<p>○課題追究の流れをとらえさせる。 ○「私たちはどのような社会に生きているのだろうか」の疑問に答えるかたちで学習課題を追究させる。</p>	<p>○これからの学習の流れを理解させる。【情意】</p>

〈キーワード〉

高度経済成長・国際社会における我が国の役割・現代日本の発展過程
国際化の進展・現代社会の特色・少子高齢社会・情報社会・家電品
電話

(6) 教材・教具、問いかけ・応答の例

- ① 戦後まもなくから1950年代、60年代の写真を見たり当時のビデオを視聴させ、イメージをつくらせる。また、保護者の子供の頃の記憶をあらかじめ取材させておき、当時の様子を振り返らせる。
- ② 【重要語彙】当時のVTRを視聴中に関連する重要語彙の説明を、以下のカードなどを使い理解させる。さらに、視聴後に再度、重要語彙の確認をカードを使って行う。また、授業の途中で、言葉を説明する前に、資料などを活用し、理解させた後にこの語彙カードを示して確認する。

高度経済成長・国際社会における我が国の役割・現代日本の
発展過程・国際化の進展・現代社会の特色・少子高齢社会・
情報社会

重要語彙カード作成の工夫例

ア 写真と説明

カードのおもて

カードのうら

高度経済成長とは？

日本経済が飛躍的に成長
を遂げた1950年代半ば
から1970年代初頭まで
の経済成長を指す。
(現在、ブラジルや中国
が同じように経済成長し
ている。)

ブラジル
か中国の
経済成長
の写真

イ 写真と地図

こくさいしゃかい
国際社会とは？

写真 o r イラスト	写真 o r イラスト
-------------	-------------

世界地図

ウ 説明と母語

こくさいか
国際化とは？

ヒト	モノ	カネ	
佬 la o	貨物 hu o w u	幣 b i	← 母語の表記 : 中国語（繁体字）

↓ ↓ ↓

どんどん行き交うようになっている状態

↓

ヒト、モノ、カネが国際化を超えて自由に移動し、産業・人材の交流の進展。また、日本から世界といった流れ、世界から日本への流れの加速。日本そのものの国際化、多くの分野でのグローバル・スタンダード（国際標準）化の進展。

↓

カードのおもて

こくさいか
国際化とは？

カードのうら

こくさいか
国際化とは、

ヒト・モノ・カネがどんどん行き交うようになったこと。

エ 問いかけと応答

カードのおもて

日本から世界の流れとは？

カードのうら

世界地図
(日本から世界への矢印あり)

③ 課題、仮説、課題設定の理由など授業支援に使用するカード

生徒のレベルに応じて使い分ける、読み仮名をふってあるカードを提示する。

カードのおもて

課題とは？

カードのうら

これから調べようとする事

上記のカード内容がよく分からない生徒には、以下のカードを提示し、例示する。

課題
電話はどのよ
うに発展してき
たのだろうか
(母国と比較し
てどのような違
いがある)？

課題
ケータイは
世界をどのよ
うに変えた
(母国にもし
ケータイがな
かったらどう
なっている)？

④ ヒントシート1

これは、課題を作ることができない生徒に例示するヒントシート。

公民プリントヒント版NO1
3年()組()番氏名()
現代社会と私たちの生活

1. 学習のテーマ（この学習全体でとらえたい内容）

私たちはどのような社会に生きているのだろうか。

2. 自分でつくった学習課題

保護者（お父さんやお母さん）が生まれた頃にはどのような家電品が出てきて、自分が生まれた頃には、どのような家電品がでてきたのか。また、電話はどのように変化して今日の「ケータイ」になってきたのか。

3. 課題の設定理由（課題を考えた理由）

写真を見て、いろいろ、今の私たちが使っているのとは違う家電品がありました。例えば、電気冷蔵庫や電気洗濯機などは形が今とはずいぶん違っていました。それでどのように普及し（ひろまり）、さらに改善（よりよくなること）がなされてきたのかと考えたからです。また、私たちの使っている「ケータイ」（電話）は、どのように変わってきたのか知りたかったからです。このように家電品がどの家庭にもあるようになり、生活はどのように変化してきたのか知りたいと思いました。

4. 課題追究結果の仮説（課題を追究すると、こういうことが分かるという予想）

家電品の普及は、もしかしたら、ちょっと聞いたことのある「公害」と関係があるかもしれません。そこで、家電品の普及により、家庭生活が快適（すごしやすく）になってきたけれど、一方で、「公害」の被害を受ける人も出てきたのではないかというのが仮説です。

5. 学習計画

<small>がくしゅうかつどう</small> 学習活動 (学習ですること)	<small>じ き</small> 時 期 (いつに)	<small>ぐたいてき かつどうないよう</small> 具体的な活動内容
①		
④		

6. 調査 (課題追究) **追究結果 (調べて分かったこと)**

結果 (調べて分かったこと)

④ ヒントシート2

在籍学級で、調査の際、使用するワークシートをあらかじめ配布し使い方を説明しておく。

このほかに、食生活の変化、情報社会の進展状況、その他 (自分の家のどのような変化でもいい。) 等を取り上げることができる。生徒の実態にあわせて、1つでも保護者への聞き取り調査ができると学習への意欲の向上に役立てることができる。

こうみん
公民プリントヒント版

3年 () 組 () 番 氏名 ()

こうどけいざいせいちょう き い こう しゃかい がくしゅう
高度経済成長期以降の社会についての学習ヒントシート2

～記入例 (聞き取り)～

☆ ほごしゃ とう かあ 保護者 (お父さんやお母さんなど) に聞いてみよう。そのとき、ぼこく 母国

(自分の出てきた国、生まれた国)がどうであったのかとともに、その時の日本もどうだったのか(保護者がよく分からないときは、近くに住んでいる日本人や日本人の友達の保護者に聞いてみよう)も聞き取りをしよう。さらに、聞き取りした内容を母国と日本、年代の違いの2つで比較して、気付いたことを書きましょう。

視点 世代	1960～1970頃の 年代(親)		1990～1995頃の 年代(自分)		比較して 気付いたこと
	母国	日本	母国	日本	2つの年代の 国 違い
1. 家電 品の普及 の状況	電気冷蔵庫 はあり まし たか? →まだ あり ませ ん で し た。	電気冷蔵庫、電話 (ケー タイ)は あ り ま し た か? →65 年頃 に 買 い ま し た。	電気冷蔵庫も かな り 大 き い の を 使 っ て い ま し た。	電気冷蔵庫に いろ い ろ な 機 能 が つ い て き ま し た。	・日本・電 気 と で は 冷 蔵 庫 か な り の な い 時 代 は 考 え ら れ ま せ ん。
3. 生活 の 変 化 や 職 業 の 実 態	農業で 働 い て い る 人 が 多 く い ま し た。	まだ、農 業 の 人 が 多 く い た よ う で す。	都市に出 て 働 く 人 が 増 え ま し た。	農業の 人 よ り も 都 市 で 商 業 や サ ー ビ ス 業 で 働 く	どちら都市 に も 農 業 出 て 働 く 人 が 多 く 増 え ま し た。 よ う で す。

